

平成30年度 港湾空港技術講演会

日時 平成30年10月9日(火)
11時10分～16時40分
(受付10時40分～)

会場 日比谷コンベンションホール
(千代田区立図書館)
東京都千代田区日比谷公園1番4号

■ 講演会概要 ■

本講演は、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所で実施している調査、研究、技術開発の成果を公表し、その普及に努めることを目的に開催しております。

本年度の講演は、清宮理 早稲田大学名誉教授 沿岸技術研究センター参与より、『港湾における洋上風力発電施設の技術の現況』と題する特別講演と、両研究所から最近の研究成果を発表します。多忙中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜りますようお願い申し上げます。

申込 方法

必要事項を明記の上、FAX・e-mailでお申し込み下さい。(様式自由)

■ 必要事項 ■

件名『平成30年度 港湾空港技術講演会 参加申込』

- ①氏名
- ②所属名
- ③住所
- ④電話番号
- ⑤CPDの申請希望

(FAXでお申し込みの方は、FAX番号もお知らせ下さい)

■ 申込締切 ■ 10月1日(月)

申込多数の場合は、定員になり次第締切とさせていただきます。

入場

無料
定員：180名



土木学会
CPDプログラム
JSCE18-1017
4.2単位

■ お申込み・お問合せ先

E-mail: ysk.nil-kouenkai@ml.mlit.go.jp

国土技術政策総合研究所

管理調整部企画調整課

Tel : 046-844-5019

Fax : 046-842-9265

海上・港湾・航空技術研究所

港湾空港技術研究所

管理調整・防災部 企画調整・防災課

Tel : 046-844-5040

Fax : 046-844-5072

■ 会場マップ



プログラム

10:40	開場
11:10	開会挨拶 栗山 善昭 港湾空港技術研究所長
11:20	『港湾分野におけるi-Constructionの現状』 井山 繁 国土技術政策総合研究所 港湾研究部 港湾施工システム・保全研究室長
11:55	『栈橋上部工点検用ROVとその運用方法の提案』 田中 敏成 港湾空港技術研究所 新技術研究開発領域 ロボティクス研究グループ 主任研究官
12:30	休憩(1時間)
13:30	特別講演 『港湾における洋上風力発電施設の技術の現況』 清宮 理 早稲田大学 名誉教授 沿岸技術研究センター 参与
14:30	休憩(15分)
14:45	『うねりに着目した設計波及び港内静穏度対策』 平山 克也 港湾空港技術研究所 海洋研究領域 波浪研究グループ長
15:20	『軟弱地盤対策としての地盤改良に係る最新の研究開発』 高野 大樹 港湾空港技術研究所 地盤研究領域 地盤改良研究グループ 主任研究官
15:55	『航空需要予測モデル改善に向けた取り組み』 黒田 優佳 国土技術政策総合研究所 空港研究部 主任研究官
16:30	閉会挨拶 鈴木 弘之 国土技術政策総合研究所 副所長

特別講演

講演者紹介/講演内容の概要

早稲田大学 名誉教授
沿岸技術研究センター 参与

きよみや おさむ
清宮 理

『港湾における洋上風力発電施設の技術の現況』

概要

ヨーロッパを中心に風力発電施設の建設が進められて、電力供給源の主要な施設となっている。洋上は、陸上に比べて風況が良好であり高効率な発電が可能である。洋上風力発電の施設の現況を解説し、日欧での技術面での相違について述べる。講演の内容は、主に地盤、波浪、風などの自然条件の設定、洋上風力発電施設の設計法、洋上での技術的問題点である。

講演者プロフィール

昭和48年	3月	東京工業大学修士課程土木科	修了
昭和48年	4月	運輸省入省	
昭和57年	6月	運輸省 港湾技術研究所 構造部	沈埋構造研究室長
昭和63年	4月	運輸省 港湾技術研究所 構造部	構造強度研究室長
平成9年	4月	早稲田大学 理工学部土木工学科	教授
平成30年	4月	現職に至る	

井山繁『港湾分野におけるi-Constructionの現状』

国土交通省が省を挙げて推進するi-Constructionについて、港湾分野でも昨年度からICT浸透工を皮切りに本格的な取り組みが開始され、本年度はさらに工種が拡大された。導入初期における効果や課題、改善点等の港湾分野のi-Constructionの現状について紹介する。

田中敏成『栈橋上部工点検用ROVとその運用方法の提案』

開発中の栈橋上部工下面の目視点検を代替するROV型点検装置について、その逐次測位機能や取得写真と位置情報の連動などの特徴的な機能を活かした運用方法を検討している。これらの特徴的な機能と合わせて検討中の運用方法について紹介する。

平山克也『うねりに着目した設計波及び港内静穏度対策』

平成30年度改訂の港湾基準では、うねりによる高波の再現期間を整理し、必要に応じて対象施設に作用する波浪外力を検討することとなった。本発表では、係留船舶動揺の評価と対策も含め、港湾設計・利用上のうねりへの対応を紹介する。

高野大樹『軟弱地盤対策としての地盤改良に係る最新の研究開発』

港湾空港に関する構造物は、臨海地域に特有の軟弱粘土や、砂がゆるく堆積する環境に建設されることが多く、高度な地盤改良技術が必要とされる。本発表では、軟弱地盤対策としての地盤改良に関する最新の研究成果を紹介する。

黒田優佳『航空需要予測モデル改善に向けた取り組み』

将来航空需要予測値は、国土交通省航空局による中長期の航空政策検討の基礎資料として活用されており、国総研ではこれを算出するための予測モデルの改善に取り組んでいる。本発表では、近年の航空情勢の変化を踏まえたモデルの改善やその課題に関する研究成果を紹介する。